

# 職業と教育

第一卷 第十号

## 内容もくじ

### — 家庭コース特集 —

家庭コースの目標と性格(アンケート).....(1)

回答者 { 中原達子・石川カツ子・蛭田怜子  
田中花子・阿部よし・廣瀬しげ  
藤田美枝

家庭コース討議の鍵(回答によせて).....編集部.....(8)

幼稚な社会認識.....(22)

(海外資料) シカゴ市におけるインダストリアル・  
アーツ.....(18)

浜松市西部中學校の産業教育.....清原生.....(21)

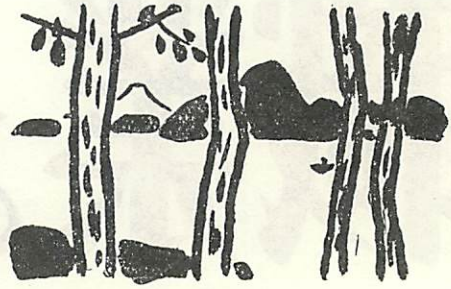
日教組の動き・会員通信.....(24)

編集だより.....(表紙3)

1953

12

職業教育研究会



## 家庭科教育研究に 男子も協力しよう

—家庭の仕事は女子がやるものだ。

—いつ、だが、そんなことをきめたんだい。

—だれもかれもないよ。昔から、そりきまつているんだよ。今でもそりだよ。洋の東西をとわずね。

といつた常識論から、はては形式社会学のジムメルまでひきだして、女子は家庭労働をするものなりときめている人が少くないようである。家庭労働を、生活的な「労働」の概念と同一に考えてよいかどうかは暫くおくとして、形式社会学に対立する認識社会学の見地から見ても、また、原始共產社会からの人

類史を見ても、猫は鼠をとるものなりと同じように、女子は家庭労働者なりとの規定はどこからもでてこない。むしろ人類が争闘時代から封建社会に進んで、常に外敵と戦を交えねばならぬようになって、武力や腕力にすぐれた男子が外で働き、女子は種属保存の具として、家庭を守るようになったと見る方が、自然のように思われる。

従つて比較的問題として考えねばならないが、極端な階級社会から、国際的な平和的な民主社会へと進むに従つて、男女の差を社会政策によつてちぎめて行くのが当然な発達であつて、そこに男女の融和した社会が形成されていくのである。ヒットラーが「女子よ家庭に歸れ」と叫んだことは、いろいろな意味で意義深いものがある。

さてかく考えた時、本号での家庭科の先生のアンケートで見られるように、家庭科教育を単に家事労働の準備教育から脱して、より高次な教育的意識をもたせようとし、そりなつたばあいに、当然男子にも家庭科の学習をさせようとの志向が強調されていることは、まさに家庭科教育の一步前進といわねばならない。同時に女子にも男子と同様に近代的な生産技術による人間形成に向わしめることで

あつて、ここに脱皮された職業・家庭科の眞意義が見出されるのである。もちろん、それは男女を同一形式で扱おうというのではなく多分に傾斜をもたせねばならないであらう。かくて、職業教育が単に職業準備や増産を目的とするのではないように、家庭科教育もまた、従来の家事・裁縫を習わせるに止つた学習目標から、それを通して社会と連なる家庭生活の改善が終局的目標となる。家庭生活の改善は、女子だけでなし得るものではなく男女の協力を必要とすることはいふまでもないことである。

ここに家庭科教育の基本線をおくとすれば指導者である教師もまた男女協力する必要があると喜ばない家庭科女教師、そんなことは女のやることだよ、と鼻先であしらつている男教師は、共に同一線上にある旧家庭科教育観の保持者である。恐らくヒットラーの哲学に通ずる、或はその危険性をはらむものだとわなくてはならない。従来男子禁制であつた家庭科教育の主権を奪おうとはいわないまでも、進んでその助言者となり、協力してその教育的意義を明らかにすることが今後益々必要ではなからうか。

# 特集 家庭コースの目標と性格

本研究会では、職業コースと家庭コースを並行して研究を進めています。が、どうも家庭コースの目標や性格がはつきりしないのです。意見がまちまちというのではなく、意見がなさすぎる感があります。そこで全国のすぐれた実業家の方々に、

## アンケート

あなたは中学校における職業・家庭科の家庭科教育はどんな目標と性格をもつのがよいとお考えでしょうか  
との質問を發して原稿を依頼しましたところ、つぎに掲げるような有益な回答を寄せて下さいました。御寄稿の諸先生には厚く感謝いたします。(到着順)

### 目標を社会的に

中原達子

短かい経験ではありますが、家庭科教育の實際にたずさわつて、最も強く感ずることは、「現実の家庭生活の実際と、私達が教えようとする、いわば理想の家庭生活との間に如何に大きな隔たりがあ

るか」ということです。そして同時に、その隔たりは単に生徒が理想の家庭生活についての知識や技術を習得することによつて解決できるもののみでなく、その範圍をはるかに超えた、大きな社会的問題でもあることに気づかざるを得ないのです。

これは、衣食住、経済その他すべての面についていえることです。が、例を住居の問題にとつてみても、私達が衛生的見地や能率の点から一人当りこれだけの広さが必要であるとか、こういう敷地を選ぶべきだとか教えても、それを聞く生徒達の住宅事情は、敷地の選択はおろか独立の住居さえもせず、さまざまの住宅難の故に、直接或は間接に殺人をさえ惹起する程の厳しさであります。こうした現実から目をそらして教育を行うことは、生徒の生活実状から遊離し、単に教室の中だけの夢物語に終つてしまふ危険性をもつてゐるように思われます。

x

そういうものではなくて、眞に生活に足をつけた家庭科教育を行うためには、やはり、社会問題という大きな障壁にも目を向け、如何にすればその障壁を除き得るかを研究し、少なくとも解決への方向づけや、いとぐちを把握させることが最も大切であると思ひます。このばあい、「そこから先は社会科の分野である」とか、或は「社会的な問題解決のための実践など、中学生には具体的に、何一



つてきはしない」等という声を聞きますが、そういつて自ら或線の内側に引つ込み、徒らに技術偏重に陥ることこそが、家庭科の正しい成長をはばみ、ひいては家庭生活の民主的な発展をさまたげるものであると思います。

家庭科学習を通して現実を直視し、完全な解決はできないまでも、問題意識をもちその解決への意欲と実践を……ということをも基本的態度としてあらゆる面に一貫させ、その上に知識の理解や技術の習得を計画すべきだと思えます。家庭科が一種の消費面の生活技術としての教科であるばかりではなく、また社会構成の一単位としての家庭生活は如何にあるべきかを探究する教科であることを忘れてはならないと思えます。

そして更に、社会を変革し進歩させる推進力となるものはめざましい個々の家庭であり、また変革された社会は家庭生活の改善を強力におしすすめるといふ、両者の密接な関係を認識させなければならぬと思います。この認識を確立し、更にこれを押しひろげて、個々の家庭の生活改善のみならず、社会全体の生活水準を向上させるように努力する生活態度を身につけさせることが窮極の目的ではないでしょうか。

x

こういふ目的をもつ家庭科は当然、男女均しくこれを学ぶことを原則とし、民主的な家族関係の下に、一家の協力によつて合理的に家事処理がなされ、社会的には対等に職業人として生産面に貢献し、家庭にあつては平等に、かつその特質を活かして助け合い、共同の責任をもつて家事を処理するよう、指導すべきだと思えます。

ここで一番問題になるのは、家庭内におお根強く残存する封建思

想であります。家事が女性にのみ過重に課せられるのも、社会に目を向けずに技術偏重に陥るのも、或は女性の職業人としての進出にブレーキをかけるものも、本質的には一つのもの、即ち封建思想の禍根から生れていると思えます。日本の社会では民主主義が外からやつて来た感をまぬがれませんが、これが眞に内から、つまり個々の家庭から、充分熟して醸酵するようにつきつきと目覚めて来なければならぬと思えます。

さきに述べた女性の職業人としての進出の問題にしても、勿論家庭内の封建性のみではなく、働きたくとも働く場所がないといったような社会経済上の事情が支配する面も大きいでしょうが、しかし女性の全人格的な独立、眞の意味での男女同権、つまり民主的な家庭と社会の確立の上からいえば、どうしても欠く事のできない要素であると思えます。

x

そこで、それを可能ならしめるためには社会の改革と、家庭内の封建性の追放が同時に行われなければならないということになります。このこともまた家庭科のあらゆる面についていえることなのですが、社会の改革が、社会科学教育の分野であるなら、家庭の民主化こそが家庭科教育の分野であり、前者が外からの社会改造を試みるなら、後者は眞に毎日の家庭生活という実践を通して、内から芽生える民主主義を育て、よりよい社会への歩みを進めるものと思えます。そういふ意味で私は家庭科が、技術のみであつてはならず、また女子のみのものであつてはならず、他教科にくらべて軽んじられてはならないと確信しています。(東京都砂町中学校)

# 正しい愛情と

## 健全な生活意欲

石川カツ子

職業・家庭科の中での家庭科教育の性格は、単的に示すと「家庭及び国民生活の改善向上に役立つ基本的な活動の経験と国民生活についての一般的理解を養い、更にそれを通して国民経済の向上についての関心を深めたい」したがって広い人間教育としての見地にたつて、家庭生活における「基本的な活動の経験」を窓として、現在に於ける日本の民族的課題をよく認識させ、家庭及び国民生活の改善向上の必要や方法を求めてゆく能力、ならびにそれらの矛盾点はどこにあり、如何にして解決するかといった社会経済的理解を養うことをねらいとしたい。以上の性格から特に新しく目標として取上げたい点を指摘すると、

一、家庭生活における基本的な活動の経験を通して「生活に対する正しい愛情と健全な生活意欲を培う」

過去の家事・裁縫のような個々の生活技術の指導よりも、まづ生活のおもしろさをさとらせ、たくましい生活意欲を養成しなければならぬ。その方法としては生徒の実生活をとらえて、それを住みよく、たのしいものにする体験を得させることである。即ち設備が不完全な場合はそれを如何にして創作するか、または代用するものは何かという工夫研究の学習でありたい。

二、家庭生活に於ける基本的な活動の経験によつて、生活に対する興味と責任とをもつ習慣を養う。

現在の社会には民主的理窟をいう男性が、家庭では案外封建的であるということが多々あるが、これは頭では、家族は協力して働かねばならないということがわかつていても、その習慣形成ができていないからである。故に明るい家庭の建設とは、新しい生活への訓練によつて、血となり肉となつて培われてこそ、解決されるべきである。

三、国民及び家庭生活の改善に役立つ仕事の重要さを理解する。

四、実生活及びその改善向上に役だつ仕事についての基礎的な知識・技能を養う。

五、協力的な明るい家庭生活のあり方を理解すると共に、その充実・向上を図ろうとする態度を養う。

六、家庭生活についての社会的・経済的な知識理解を養う。

七、勤労を重んじ、楽しく働く態度を養い、仕事を科学的能率的にかつ安全に進める能力を培う。(盛岡市下小路中学校)

## 三つの基本的な目標

蛭田怜子

国民生活の一般的な理解と消費生活の仕方の基礎的な知識技能の習得を目標とする。これをさらに細かく分けてみると、つぎのようになると思ふ。

1、科学的な態度を養う。



近代生活を営んでゆくには、自然科学はもちろん、社会科学についても知識があり、広い見方によつてささえられなければならない。現実の生活をつぶさに観測し分析して、そこに新しい方向を発見する。即ち新しいものを追求する態度である。

2、生活の形式を簡素にし、すつきりした機能的な生活の様成を考へる能力を養ふ。

旧態依然たる裁縫と料理に逆もどりするのでなく、着る、食べる、住むということは、いつの時代にも人間生活の原則の一つなので、それを現代においてはどういふふうになかしてゆくかが問題である。殊に生徒が十年後に家庭生活の中心となる人であることを考へ、思い切つた新しさを考へなければならぬ。

3、家庭生活の社会的合理化を図るために必要な知識、能力を養ふ。

現代生活の簡素化は社会生活の発達によつて裏づけされるべきものである。一軒の家だけで処理しようとする態度でなく、生活をまもる社会機能として考へなおすべきであらう。従つて、社会の保護を活潑に利用し得る、家庭生活への感覚と技術を養ふことがたいせつである。

○

以上、家庭科教育の目標として考へている点ですが、家庭生活の重要性はいつも説かれながら、その取扱ひは一番後まわしになり、社会の矛盾の埋め合せを、家庭で全部負担しなければならぬといった状態が多いことも考へ、もつと近代的な生活を築くために、自信と希望をもつて努力しなければならぬと感じます。

(福島大学附属中学校)

## 男女共学の家庭コース

田中花子

職業・家庭科中の家庭科教育の目標として挙げられることは、国民生活の安定と合理化という見地から、国の産業経済につながらる家庭生活のしかたについての、基礎的知識と能力とを学習する教科であるということだ。

家庭生活のあり方というのですから、その家庭を作つているところの男女が共に研究する問題であつて、今まで考へられていたような、家庭科は女子の学ぶべき教科であるという解答は成立たないのです。

家庭生活に附随する仕事の基礎的技術を理解し、またそれを行なうことによつて、生活改善への糸口を発見し、その開かれた窓を通して生活の合理化をはかり、社会と家庭との関連性を理解し、産業面と表裏一体であるところの家庭生活の向上に務めたいと思ひます。また家庭生活のあり方といつても、それは地域社会の事情によつて、左右される面も多々ありますが、ただ徒らに地域の要求があるからといつてそれに従うのではなく、地域の要求に程遠いものであつても、国家という大きな見地から必要であり、そしてそれが、家庭科教育の基礎となるものであるならば、目標として取り上げるべきであると思ひます。

大体目標を大別して、五つになります。家庭経理、衣生活、食生活、住生活、保育衛生等に関するものでありますが、保育衛生の内

には老人に対するいたわりの気持や、家族間の精神生活の面を大いに含ませたらよいと思えます。個々の仕事の内容は現段階においては男女の傾斜のつくことは止むを得ませんが、男子に仕事の面を少しも経験させないというようなことは、あつてはならないと考えます。

例を一番男女差の甚しいと思われる衣生活の面にとつてみます。「衣」というとすぐ縫うことが頭に浮びますが、縫うことそれ自体だけが目的ではなく、自分の衣生活に関心をもち、能率、衛生、趣味、礼儀にかなつた、正しい被服計画をたて得る知識を習得し、衣生活の中に含まれる手入れ、保存、選択、裁縫の技術を経験してはじめて改善向上への道程がうち立てられるのではないでしようか。良い選択眼を持つことにより、粗悪品を市場から駆逐し被服材料の質の向上を来し、セナイ類に対する化学的な眼が開かれることにより、手入れの方法も合理的にゆくというようになるのではないでしようか。

また正しい計画ができていけば、虚栄的な衣類の持ち方もしないでしよし、衣生活の簡素化、能率化もできると思えます。これはほんの一例ですが、これだけでもずい分家庭の無駄がはぶけ、みせかけの生活がなくなり、商品におどらされて自分にそぐわない衣生活を送ることが減るのではないでしようか。

しかし女子においてはこのほかに和裁、洋裁の基礎的部門を習得することに、応用性を会得し手縫に自分の趣味を生かし、被服処理の能率をあげさせることが望ましいと思えます。

終りに家庭生活の向上は男女の協力なくしてはなし得ないということの特記して筆をおきます。(東京都奥沢中学校)

## 家庭科でなくては

### できない内容

阿部よし

計画生活を口にしなが、毎日の仕事に追い廻されている中に、年を過すといつたぐあいの暮し方で、残念ながら勉強不足でございまして、申し上げますことが当つているかどうかわかりませんが書いて見ます。

中学校における職・家の中の家庭科教育の目標と性格については中央産業教育審議会建議書に示されたものでよいと考えています。以前のものは何か割り切れない、しこりを感じていましたが、建議案を見ました時、前よりはずつとスッキリした感じを受けました。

私見を申し上げますと、家庭コースの性格を明瞭にするために、できるだけ他教科との重複を避けて、家庭科でなければできない内容に限定するのがよいと思えます。そう致しますと、指導者の力の入れ方も、生徒の学習態度にも、熱が加わつてまいります。

家庭科の内容は、家族関係、衣食住に関する知識技能と考えるのですが、まず思うことは、愛情をぬきにした家庭科学習はなりたないということです。家族関係がよく理解されて、愛情が基本となつた場合は、家族の幸福のために勤労し合い、勤労そのものが楽しみとなり、したがつて勤労を好むのぞましい態度が生れてくるも



のと思っています。

勤労を喜ぶ精神と、家庭の民主化に対する積極的努力、これなくして明るい家庭生活は望むべくもないと考えています。

つぎに衣食住に関する技能のことですが、これは家庭科でなくてはできない内容をもつものですが、そうかといつて決して高度のものをも望むべきでないと思つています。

例を衣服にとつて見ますと、地域の希望が強いからとて、裕長着や縮入等までとりあげて苦勞しているむきもあるようですが、学校時間ではいくら苦勞してもものになるほどの学習は望めないように思いますので、選択の方で少し深く入ることにして、必須の方ではごく軽いものを取入れるのがよいと思つています。

要するに技能の巧劣よりも、それを通して国民経済（職業生活）並に国民生活（家庭生活）の改善向上に対する理解を深めるのがねらいであるから、よしや技術は下手であつても、よく勤勞し現在の家庭生活に協力する態度を身につけさせるのが先決問題だと思つて努力しているつもりでございます。（福島市北信中学校）

## 女子のみの独占に非ず

広瀬しげ

中学校職業・家庭科の中の「家庭科教育」の目標と性格について私の考えをつぎに簡條的に述べます。

一、従来から中学校においても、家庭科教育は女子に限る独占教育のように考えられて来た面があるようでしたが、これは全くの誤

りで、現代の民主社会では「家庭科教育」こそ男子にも女子にも等しく授けなければならないことだと考えます。

男子が外に出て職業に従事し、女子は家庭に入つて家事に従事するというふうな昔ながらの考えは、今の世の中には考えられないこととあります。なんとすれば現実においては、女子が男子と共に職業に就く者の多いことを考えてもいい得ることだと思ひます、また男子が家庭生活を共にしている現実からも当然として、女子にも職業、男子にも家庭の教育を行つて、家庭生活・職業生活における基礎的な教育を行うことは、男女同権の日本の民主的な家庭生活の建設には、きわめて必要なこととあります。

かかる意味から「家庭科教育」は女子のみの独占教育ではあつてはならないと思ひます。

二、家庭科の教育は家庭生活の中の衣食住を通して「家庭生活の改善向上に役立つ基礎的な活動と経験を習得せしめる」と共に、国民生活についての一般的な知識・理解を得させることに重点がおかれなければならないと思ひます。

三、家庭科の教育は従つて男子にも女子にも共通に授けなければならない。但し男子には「職業」、女子には「家庭」の比重を大きくすることは必要なことと思ひます。これには職業と家庭の学習系列を、明確にする必要があると考えます。特に低学年（一年生）に対しては、家庭科の教育は男女共学で共通に授けるのがよいと思ひます。

以上、私の考えている家庭科教育の目標と性格の一端について述べてみました。（小田原市立第二中学校）



# 中央審議会案に賛意

藤田美枝

文部省の学習指導要領に「職業科」と「家庭科」は、「実生活に役立つ仕事を中心として」を「公約数」として融合させてあるが、職業科と家庭科とは、その仕事の内部的な性格の上に本質的な相違があり、また家庭科は「公約数」からはみ出た「仕事」とはいわれない生活活動の経験学習を含み、その中に家庭科の独自性のあることを見出す時、職業科、家庭科別々のコース分立の構想を持つ中央産業教育審議会の案に賛意を表する。

しかし現行の四類十二項目も家庭菜園として、養鶏として又電熱器やミシン自転車機械操作、家庭工作、家計簿、台所改善のための設計製図等を挙げれば実施が不可能であるとは言はない。が再建日本の産業復興の要求から見れば家庭科的職業教育で満足であろうとは思われない。また職業指導という大きな課題が「職業・家庭」科という名称の中に限られた時間のワツクの中に押し込められ、職業科と家庭科にのみ関係を持たせようとするのも不合理である。家庭科は他の教科及び特別教育活動における職業指導との関係と何等異なるものではない。

社会の構成単位が家庭であり、その分子が個人であつて、その健康で文化的な向上は個人の家庭のまた国家社会の発展である。家庭科の最終の目的はここにあつて、これは男女等しく必要であり、男女の協力によつてなされるものであり、女子は将来の生活の要求に

もつづいて一層深い理解と技術を身につける必要があるのであつて現行のより小さな枠の中に雑居し雑事雑念に煩わされることなくすつきりと家庭科としての体系の中に学習をすすめるのが本当だと思ふ。

## 一、家庭科の性格

中央産業教育審議会案では「家庭生活の改善向上に役立つ基本的な活動の経験とそれを通して国民生活についての一般的理解を養ふ」と規定している。それは

(1) 家庭生活の「基本的な活動」の経験を学習するところの「生活経験学習」であること。「基本的な家庭生活の活動」とは何であるかは教育内容として考えられねばならない。

(2) その「生活経験学習」は家庭生活の改善向上に役立つものである為に、わが国の家庭生活の奥態確認の上から重点簡素化、科学能率化、美的明朗化、社会化協同化を目標とし家庭生活内部的な諸要素との関係における家庭の本質の理解と国民生活についての一般的理解の上に生活技術教育がなされねばならない——総合技術教育である。根本的にはこのような立場を取るので幅の広い割に底の浅いものになる傾向を持つ。

(3) 女子の現在と将来の要求に基いて家庭生活技術は全領域においてそれぞれの系統を持ち、ある程度の深さを持つに技能を望み得ない。また地方によつては一層深い要求のある所もあろうが根本的な立場を離れてはならない。(2)と(3)によつて男女必修、女子必修或は女子選択等の実施上の問題が考えられるのであるが、それとともに男女の区別ない家庭科の共学必修に将来の家庭生活の民主化協力の楽しい効果を期待したい。

(4) 国民を実践的にし勤労の態度創意工夫の能力を馴致するための重要な教科であるとおもう。

## 二、家庭科の目標

家庭科の最終目的に照して小学校中学校高等学校の一貫した観点に立つて一応、小学校は「家庭生活指導」として、中学校は義務教育完成の一区切りとして「基礎的一般的」に、高等学校は「分析的実験的に」と考え、中学校の段階を「知識、理解」「態度習慣」「能力技能」の面について挙げてみる。

## 知識理解

(1) 家庭生活が愛の協同体であることを理解し、その生活現象との関聯と明るい家庭生活のあり方がわかる。

(2) 家庭生活の営みや改善向上が国民経済や国民生活に対する一般的理解の上成り立つものであることを知る。

(3) 家庭生活を営む上の基礎的科学的知識理解を持つようにする。

## 態度習慣

(1) 家庭生活の改善向上を図り楽しく生きようとする態度を養う。

(2) まめやかに楽しく働く態度。

(3) 協力して仕事をすすめ家庭生活を明るくする態度。

① 家庭生活を営む上の基礎的な技能を養う。

② 仕事を科学的能率的にすすめる能力。

③ 環境に応じて応用し工夫創造する能力。

(大分大学学芸学部)

# 家庭コース討議の鍵

★……御回答に寄せて

編集部

ここに掲げた実際家の方々の七つの御回答は、非常に重要な意義をもつていると思うので、あえて蛇足になるかも知れないが、若干の考察を附してみたいと思う。

まず十三通だした質問者に対して、五〇%を上まわる七通の回答を得た点をあげたい。その大部分が本年三月末の家庭科研究協議会への出席者であった点、特に熱心に実践されている方々である点、また何回か執筆活動もしていられる点など、比較的優秀な、従つて都市の先生方に多いことにもよるが、それぞれ一つの見識を持つていられ、それを発表しようとする態度に深く敬意を表したい。

今さらいうまでもないことではあるが、日本では婦人の発言権も発言の機会も長い間圧えられ、それが習性となつて女性は男性のよりに発言してはよくないという気風と共に、感情的または主観的には、ましく立てることはあつても、理論的に発言したり、文章を公にしたりすることはあまり得手ではなかつた。これは急速に改められなくてはならない。あらゆる機会に、あらゆる方法で女性の公的な発言のばされなくてはならない。男女平等とか民主化ということとは、そうした実践からはじめられるべきである。しかし実状は必

ずしもそうではない。特に選んだ方で、回答を得なかつた六人の方には、何か事情があつたことと思ふが、その点誠に遺憾とする次第である。

つぎに七篇に共通している点は、中央産業教育審議会案を支持していられる点である。もちろん、その理解には、それぞれ多少のちがいはあるが。そして従来の「家事裁縫」に止ることはできない気が流れている。少くとも、従来の仕事本位では、家庭科教育の意義がないことを、指摘されている。

その立場から、従来女子のみに課せられていた家庭科教育を、もつと広げて男子にも課さなくてはならないと考えられている点は共通理念のようであり、特に、石川、田中、広瀬氏等が強調している。

家庭科教育の幅を広げ、その重要性を強調されている点で中原氏の見解は注目に価する。中原氏は現実の家庭生活を直視することを強調して、今までの家庭科での理想的な技術や知識に止つてはられない、実践的な悩みから出発して、その目標を社会的関係にまで高めようとしていられる。同様の視点は、蛭田氏の文章にもみられる。これを裏がえしにして見た時、石川氏の正しい愛情と健全な生活意欲をもち上げることになるのだと思ふ。

阿部氏が家庭科でなくてはできない教育内容を考えたいとされている点も、この教科を確立する上に注目すべきことと思ふ。藤田氏の見解はやや抽象的で実践的な実感が得られないのは無理もないと思ふが、理論的にも家政学を越える必要があるのではなからうか。現実のきびしさを見つめてほしい。広瀬氏が女子の独占教育ではないと主張し、田中氏が男女共学を実践的に示された点同感である。

以上の諸先生の意見は、いづれも今後の家庭科教育のありかたを討議する上に、重要なヒントとなり、大切ないくつかの鍵となると思われる。だが、これで結末がついたのではない。さらに、大胆に卒直に、しかも教育的な視野から、たえざる検討が必要である。われわれもまた暗中模索の域を脱していない。男女の区別なく多くの人からの意見によつて、この教育の目標をうち立てていきたいと思ふ。その意味から、全体についてなり、個々の意見なり、また編集部この見解についても、会員の方々から批判を寄せられることを希望するものである。

## 冬期研究協議会開催

(職業教育研究会主催)

十二月下旬 恒例の冬期研究協議会を本年も開催したいと思ふ。於東京 つています。参加者は約三十名、宿泊提供の予定です。但し一般から募集せず、正式の本研究会々員の中から選定して詳細御通知します。招請状を受けとつた方は、萬障御繰合せ御出席下さい。

今回の中心議題は「職業コース必修の標準教材の指導内容」についての検討で、原案は目下特別委員会にて研究中です。更に本研究会の新発足についても協議願いたく、極めて打ちとけた協議会にしたいと思つています。

なおおきつづき、つぎのような計画を予定しています。

来年一月下旬 中学校産業教育推進協議会準備会

同 三月下旬 恒例の家庭コース研究協議会

詳細は追つて本誌々上または通信によつて連絡しますから、その節は御協力願います。



## △△△△△ 設備の矛盾

### 妙な不文律？

裁縫室もなければ、家事室もないと、いかにも哀れな学校のようにコボされるのや、ミシンが一台しかありませんと不満を述べられる学校は別として、一般にいつてあまり設備のないという学校でも、家庭科の特別教室や設備は割合できているのが多いのではないだろうか。少くとも職業科設備に比べてみればあいに……。

ある学校で、産業教育指定校になつて、さて今まで何の施設もないが、補助費の僅かな金でどう使うかとなると、半分以上は家庭科の方へ傾いているようである。また堂々たる新築の中学校となれば、例外なく立派な家事室と裁縫室ができ上るようになつてゐる。職業科の特別教室はなくともである。「この家

事室は文部省の規程を超えています。」といわれる立派なものがあつて、職業の作業室は、ときくとまだできていないという。

### ○

別に家庭科の先生が強く要求しなくても、ちやんとできるのだから、家庭科もそれに合した教育内容が組まれるわけである。「その点家庭科の方が恵まれていますよ。」と設備のないことを嘆く職業科の先生は苦笑した。いつの間にか、こんな不文律が学校の中にできたのである。

小学校だつて裁縫室に家事室それに床間までついた作法室まであることが当り前になつてゐる。考えてみるに、これは学校を一個の家に見たてて、家庭にあるように台所や座敷がなくて、は、ということじゃないかと思う。また村の有力者や職員がパイやるのに畳の上がよい、というのが表には出せないが案外本音かも知れない。地域となごやかにとけこむ学校の理想(?)

の現われともいえよう。

### ○

とすると、これは学校は集会場をかねようというので、別に家庭科教育のためにというところではないようである。そしていつの間にか、それが学校の体裁になくはならなくなつてきているところに、笑えない現実がある。これでは、家庭科の設備があるから、その学校の家庭科が進んでいるとばかりはいえない。なぜなら、設備が先にできてそれに教育内容を合せただけだからである。論より証拠、それ位ならもつと家庭科を学校教育上の優位におきそうなるものを、必ずしもそうではない。どうも、その辺にわり切れないものが感じられるが、皆さんいかがですか。

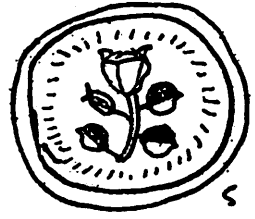
### ○

もう少し学校の機能というものを検討してから設備をするべきではなからうか。近代学校は決して家庭と一しよにすべきで

はないし、集会場はどこまでも第二義的で、教育を本体に考えなくてはなるまい。お寺にしても、保険所にしても、役場にしても、郵便局、警察、公民館、すべて公共の建物は、それぞれの使命を第一義にしている。学校だけがなぜ「教育第一」にできないのであろうか。いやそれも教育だといえはいるが、その教育には自ら軽重がある。理科室、木工室、標本室、児童図書室、等々教育的に重要なものが多い。職業・家庭科だけを見ても家庭の設備の方に比重が重いのは、どうも肯けない。

### ○

家庭科の先生にしてからが、別に家庭科教育を重要だからという教育理論から出発した設備でないならば「まあないよりはまし」程度にしか受けとれないと思う。むしろ教育全体から考えて、男女必修の職業科の設備のないことを、職業科の先生と共に嘆くべきではなからうか。その教育的貧困さをこそ恥ずべきではなからうか。(N生)



# 職業・家庭科

## カリキュラム構成の基礎

小田原市第二中学校

### まえがき

昭和二十二年以来、職業・家庭科に重点をおいて、石川校長を中心に研究実践をつづけてきた小田原市第二中学校では過去の実践の跡を省みると共に、本年度から新しい産業教育の線にそつた実践に進みつつある。その成果は、近く本研究会によつて単行本として上梓される運びに至り、すでに原稿はまとまつて組版にまわされ、来年一月中には出版される予定である。本文はその中の一部分で、諒解を得て本号で発表させてもらうことにした。なお具体的な構成表があるが、ここでは省略した。(編集部)

### 1、職業・家庭科の教科構造

本校においては、さきに述べた職業・家庭科の目的および性格から、必修教科としての「職業」と「家庭」は、男女共通に学習する共通部門と、男子は「職業」女子は「家庭」に比重を重くした傾斜部門とにわけて設定し、時間配当をすることになっている。

ここでいう「傾斜部門」とは、「共通部門」の基礎の上に設定さ

れる学習部門でなければならない。しかしこの部門は、絶対的永久的なものとはいえない。社会の発展の過渡的段階における相対的、一時的な相違である。従つて社会の進化にともなつて、この傾斜部門の必要性は減少して、共通部門が増加してくることが予想される。故に、共通部門こそ最も大切で、そこに重点がおかれなくてはならないのであるが、しかしこれは学校や地域の事情によつて異なるであらう。本校においては、つぎのように設定している。

(第一表) 教科の基礎構造と時間数

選択	必修		部 門	領 域	必修 週三時 間合	必修 週四時 間合
	傾 斜	共 通				
男子 「職業」 選択	男子 のみの 職業	男女 共通の 職業	領	域	三	二
女子 「家庭」 選択	女子 のみの 家庭	男女 共通の 家庭	部	門	三	四
四	四	四			四	四



(第二表) 学年別コースの構造と時間数

選		修				必				学 年	部 間	領 域	時 間 週	年 間 時 間
年学三第	年学二第	(学共別) 年学二第		(学共別) 年学一第										
傾斜 選択	傾斜 選択	傾斜	共通	傾斜	共通	傾斜	共通	傾斜	共通					
男子のみの職業 (A)	男子のみの職業 (A)	男子のみの職業 (A)	男女共通の職業 男女共通の家庭	男子のみの職業 (A)	男女共通の職業 男女共通の家庭	男子のみの職業 (A)	男女共通の職業 男女共通の家庭	男子のみの職業 (A)	男女共通の職業 男女共通の家庭					
女子のみの職業 (B)	女子のみの職業 (B)	女子のみの職業 (B)	男子のみの職業 社会的経済的知識	女子のみの職業 (B)	男子のみの職業 社会的経済的知識	女子のみの職業 (B)	男子のみの職業 社会的経済的知識	女子のみの職業 (B)	男子のみの職業 社会的経済的知識					
女子のみの家庭 (C)	女子のみの家庭 (C)	女子のみの家庭 (C)	(計)	女子のみの家庭 (C)	(計)	女子のみの家庭 (C)	女子のみの家庭 (C)	女子のみの家庭 (C)	女子のみの家庭 (C)					
四	四	四	一〇五時間	四	一〇五時間	四	四	四	四					
一四〇	一四〇	一四〇	二四	一四〇	二一 六 二七	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	五四	一四〇	五四	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	五四	一四〇	五四	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	二四	一四〇	二四	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	二七	一四〇	二七	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	二七	一四〇	二七	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	一八	一四〇	一八	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					
一四〇	一四〇	一四〇	三四	一四〇	三四	一四〇	一四〇	一四〇	一四〇					

備考  
 1、第一学年は全員英語(学校選択にしている)  
 2、Aとは工業面に重みをかけたコース  
 3、Bとは商業面に重みをかけたコース  
 4、Cとは家庭面に重みをかけたコース

2、全体計画のねらい

(1) 職業・家庭科の職業コースの学習は「科学的な生産人」をめざして、現代主要産業における「基本的分野」の「基礎的な技術」の習得を通じて、産業社会についての一般的な理解を養い、以て国民経済の改善向上をはかるところに、終局の目標がある。  
 家庭コースのねらいは「科学的な生産人」をめざして、現代家庭生活における「基本的な活動」の習得を通じて、国民生活についての一般的な理解を養い、以て国民生活の改善向上をはかるところに、終局の目標がある。

よつてこれらの目標を教育計画の根本精神として計画することが肝要である。  
 (2) 職業・家庭科の学習計画は、「仕事を中心」として行われるのであるが、この仕事は単なる仕事ではなく、この教科の教育目標と、すべての教科の教育内容が、基本的な分野の「代表的な仕事」に有機的に総合された、まとまりのある計画によらなくてはならない。

(3) カリキュラムは、基本的分野毎にまとまりのあるように計画する必要がある。  
 3、学年の計画について

3、学年の計画について

A、第一学年  
 (1) 原則として男女共通の「職業」「家庭」を基本的な各分野にわたつて学ぶように計画する。  
 (2) 地域や生徒の必要、学校の事情等から男女に傾斜をつけるばあ



いは、あくまでも共通コースの基礎の上に傾斜をつけなければならない。

(3) 社会的経済的な知識ならびに管理的知識は、総時数の四分の一程度をあてて計画する。

#### B、第二学年

(1) 第二学年は第一学年の基礎技術の上に、生徒の必要とか、学校の事情等から、男子のみ、また女子のみが学習するに適切な分野に、比重を重くして計画する。

(2) 社会的経済的知識ならびに管理的知識は、総時数の四分の一程度をあてて計画する。

#### C、第三学年

(1) 第三学年は第一、二学年の基礎技術の上に、男子は「職業」女子は「家庭」の分野について、地域や生徒の必要、学校の事情等から適切な分野に比重を重くして計画する。

(2) 社会的経済的な知識ならびに管理的知識は、総時数の四分の一程度をあてて計画する。

### 4、選択の時間について

選択については、いろいろの問題点がある。

(1) 基礎教育の立場から、できれば選択職業をなしにして必修だけとし、英語を準必修として、両者を週四～五時間ぐらい、全員に課した方がよいという意見がある。これは「英語」を選択した生徒は、職業を学ぶことができないし、反対に「職業」を選択した生徒は、英語を学ぶことができない。この問題点の中心点は後者にあつて、産業教育の立場から英語も絶対に必要であるという主

張からきている。これは主として都会地に多いようで、地方ではそれほど必要だとの主張はなされていないようである。

(2) つぎにこれとは反対に、必修職業だけでは、学校卒業後、直ちに就職する生徒たちにとつて不十分であるから、選択職業を絶対に必要とする意見である。英語は将来高等学校から大学に進学するものが選択すればよいので、現行の方法でよいのである。

(3) 高等学校への進学者の率の高い中学校では、選択職業は成り立たないとして、英語を学校選択として、全員に課した方が適切であるとし、現にそうしている中学校もあるようである。

以上のように、異つた意見があるが、本校では進学と就職の率が大体五分五分であるので、選択は「英語」「職業」とし、生徒の進路と希望とによつて、いづれかを選択せしめて、週四時間実施することになっている。

### 5、共通コースと傾斜コースの観点

共通コースの仕事と、傾斜コースの仕事との限界は一律のものではない。その学校の事情や地域社会や生徒の必要に応じて、その学校の方針の下に選択されるべきものである。

共通コースは、さきに述べた職業コース・家庭コースの終局の目標に向つて、男女共に必要な基礎技術を中心に考えなければならぬ。それであつてこそ全国に共通する性格をおびてくるといえるのである。

傾斜コースは、共通コースの基礎の上に立ち、男子・女子の特性と、地域性や学校の事情等から特色を持つものである。

### 6、学年別仕事の系列

各学年別仕事の系列は、まずその基礎は教科の目標と学校の方針、基本的分野と学年、男女、時間数、施設、設備、教師等の事情から「基礎的技術」を基に、職業コースと家庭コースとにわけて、配列されなくてはならない。

つきに本校における各コースの仕事の系列表を掲げる。

#### 一、職業コースの仕事系列表

5、電気	4、機械	3、製図	2、飼育	1、栽培	基本的分野
					共通
同	同	同	同	管理 経営	形式
傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	一年
電気スタン	ミシン操作	花壇の設計		草花・鉢物	二年
電熱器組立	自動車分解修理 ミシン操作	基本製図	にわとり	野 菜	三年
電気洗濯機	時計分解修理 木工機械操作 ミシン操作	機械製図			年

#### 二、家庭コースの仕事系列表

1、裁縫	基本的分野	6、木工	7、金工	8、クワ トリ	9、事務	10、記帳	11、計算
管理 経営	共通	同	同	同	同	同	同
傾(家) 共通	形式	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通
運針	一年	鉢 受台	火 ばし	コンクリ ト煉瓦	通 信 文	小づかい帳	珠 算
ブラウス、	二年	ホウチヨウ かけ	煙 突		刷 文 取 引 通 信 文 取 引 書 類	現 金 出 納 帳	珠 算
衣 事 着、 単	三年	層 入 れ 箱	ブザー組立		取 引 書 類	家 計 簿	珠 算

7、衛生	6、保育 養老	5、住宅	4、調理	3、洗濯	2、編物
同	同	同	同	同	同
傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通	傾(家) 共通
清 掃		室内装飾	飯と汁 パン・おや つ	ブラッシュ かけ アイロン仕 上げ他	花びんしき ししゅう
	老人の世話	住宅設計	うどん・シ チュウ、他	洗濯(丸洗 い) 染 色	ソックス
	乳児の世話	間取設計 台所設計	赤飯・煮物	染 色	毛糸あみ

### 7、一仕事の時間数の決定

一つの仕事の時間数の決定は、極めてむづかしいことである。その原則を示せば、仕事の時間数は、学年、男女、教育内容の量と質および施設、設備等から、仕事の「基礎的技術」と、その関係知識

を与えるに足る「最少限度」の時間であるので、その基準は、「仕事指導票」の「要素作業」におかねばならないのである。

(以下各学年別仕事時間配当表、インフォメーション配当表、本年度における必修、選択時間数比較表等、今回の発表に限りページ数の関係で省略しました。——編集部)

### 8、学習形態について

学習形態については、われわれは過去において、いろいろな形態の学習指導を実施してきた。それを検討してつぎのような結論を得たので、これを基礎にカリキュラムを構成することにした。

(1) われわれは、「単元構成による学習」は、職業・家庭科がめざしている教育を効果的に行うことができるので、この方法を最も適切なものと認める。なんとすれば、適当な仕事を選んで、それをつぎからつぎへと与えると、仕事の羅列になつてしまつて、生活の実態の中に成立している仕事とは著しく異つたものとなつてしまふ。それけ単に異なるばかりではなく、生活の中に見られるように仕事の組合せが、それによつて、何等かの課題として解かれてまゝとめられるような一連の構造とけならぬ。一つ一つの仕事に熟練しても、全体としてまとまりを持たないために、生活としての意味を失ふからである。

(2) われわれが従来行つてきた「生活経験単元」の学習は理論的に考え、また実際にうまく行われれば効果的であるが、結果から反省してみると、一つの生活経験の仕事は、いろいろな種類があつて、それらの仕事の技術の系列は全く無視される。従つて技術学習としての組織的系列的な学習が不可能になるという結果を生じ



たのである。

(3) この点からすれば、最初から教材単元に構成して、組織的系列的な構成によつて学習することは、この教材の持つ性格上最も適切な単元構成であるかということになる。しかしこれもうまく行われればよいのであるが、生活単元とは反対に、今度は一つの仕事の羅列になつて、まとまりがなくなり、単なる仕事の技術学習になつてしまふおそれがある。

(4) 以上の諸点は教師の問題となる点が大いのである。職業・家庭科の単元学習に特有な点は「仕事による技術展開の単元」であるということである。それは仕事をすることによつて、技術を身につける際に、その意味や原理、社会的経済的な理解が与えられるのである。従つてこれらの知識は仕事から切り離して、教授されるのではなく、仕事による単元の展開になくはならないものとして、おり込まれるものである。このような観点から本校においては、つぎの如き結論に到達した。

単元構成はまず課題的な単元を定めてこの目標を明らかにする。つぎにこの目標を達成するための中単元を設定する。この中単元は一つの教材単元としての性格を持ち、かつ仕事による技術展開の単元として、また基本的分野の代表的な仕事として、その「基礎的な技術」と「関係知識」ならびに「態度」を有機的におり込んで、この教科の大目標たる「職業生活および家庭生活における基礎的な技術の習得、基本的な活動の経験と共に、それを通じて国民経済及び国民生活に対する一般的な理解を養ふ」ことを達成しようとしたのである。いわば生活経験単元と、教材単元の長所を総合的に生かそうと試みたわけである。

## 9、他教科との関連について

職業・家庭科と他教科との関連をいかにしたらよいか。これは極めて必要なことであり、またむづかしいこともある。つぎに本校における教科との関連についての原則をあげることにする。

### (1) 基本的分野と他教科との関連

本校では主要産業における基本的分野のうち、職業・家庭科で行うものと、他の教科にゆずれれるものと、双方にわけれるものと考えてつぎの分野をあげた。

測量、化学分析、電気、機械、図案、木工、竹工、紙工、金工、製図、コンクリート工、ねんど工、衛生

イ、右の中、測量は「数学」、化学分析は「理科」、紙工・図案・竹工・ねんど工は「図工」へそれぞれ全面的にゆずる。

ロ、電気・機械は職業・家庭科で設定し、代表的な仕事のミシン操作、電気スタンド組立、電熱器組立修理、自転車分解、時計分解組立、ラジオ組立、電気洗濯機等は、理科教育で直接取扱わない。

ハ、コンクリート工は、全面的に職業・家庭科で取扱い、図工科では扱わない。

ニ、衛生については、保健衛生を「保健科」で、家庭コースでは住生活の衛生、職業コースでは労働衛生を扱うことにした。

ホ、一番問題なのは、木工、金工、製図である。これはいづれも全面的に他教科へゆづることは不可能で、仕事の内容で調整して、仕事によつてわけることにした。従つて職業・家庭科で行うものは、図工科では行わないことにした。

## (2) 同一教育内容と他教科との関連

前項の基本的な分野の問題は、割合に調整しやすいのであるが、一番問題になるのは、各教科の教育内容において、同じ教材をいかに調整するかがむづかしいことである。これをここで全部にわたつて述べることは困難であるが、その一、二をつぎに示してみよう。イ、同じことがドリルされることによつて更に効果を増すもの、珠算、タイプライティングの如きもの。

ロ、同じことであるからといつて、これを省くことは適切でない。あい、例えば「労働基準法」と、社会、日本史、保健・体育、職業・家庭科、職業指導等の問題。

これらの各教科で扱わねばならないもので、どれか一つの教科でまとめて扱うことは適切ではない。たゞここで注意したいことは、どの教科で扱う場合も「労働基準法第一條に曰く」式では無駄が生じるので、この点は各教科担任で取扱い方について連絡しあうことが必要である。

## (3) 他教科との連けいの手続き

他教科との連けいは、つぎのような手続きと順序とで行うのが適切である。

イ、各教科連絡協議会を開く。

これは各教科担任の代表または全職員で相互の教科の内容的関係の連絡打合せをする。この打合せ会では教材の内容調整まで行う。

ロ、各教科の連絡表を作る。

これは各教科から年度計画作成前に、月別教材配当表を作成してこれを持ちより、第二回の各教科連絡会を開いて教材相互

の關係等について連絡調整する。

ハ、各学年の年度計画表を作成する。

ニ、各学年別、教科別、学期別、月別一晩表を作成する。

ホ、職・家の学年別、コース別、仕事系列表を作成する。

ヘ、職・家の学年別、単元別、他教科との連絡表を作成する。

ト、関連箇所、該当学年の教科書を一読する。

(カリキュラム構成の形式、必修・選択の各学年カリキュラム表は省略。――編集部)

## 「職業指導主事制」成る

### カンセラー設置の前提

文部省では、新教育制度実施以来変化を来している学校行政の newState に対処して、このほど「学校教育法施行規則」(昭和二十二年文部省令第十一号)の一部を改正し、去る十一月廿七日にその省令を公布した。

その中で、かねて現場から要望されていた「専任カンセラー」設置の前提として、取り敢えず中学校に「職業指導主事」を補職することに決定した。このことは、職業指導の全校的組織の必要が叫ばれつつも、ややもすると核心的なものを持ち得なかつた従来の欠陥を解消し、また職業指導の過大な影響によつて、その性格や目標をゆがめてしまつた職業・家庭科の不振や混乱がある程度是正することにもなるだろう。つぎに、関係条文を掲げておく。

「第五十二条に次の一条を加える。

第五十二条の二 中学校には、職業指導主事を置くものとする。職業指導主事は、教諭をもつて、これにあてる。校長の監督を受け、生徒の職業指導をつかさどる。」



## シカゴ市初等・中等学校における

## インダストリアル・アーツ（目標と内容）

## 一、インダストリアル・アーツの意義

インダストリアル・アーツは、一般普通教育の基本的な部分を占めている。前世紀においては、子どもたちは地域社会のなかにおいて、靴職人・ブリキヤ・馬具職・ホーキ職人・カジャなどのしごとを安易に観察することができた。現代においては、われわれが使っている品物の大多数は、工場において、ときには数百マイル離れた地方において作られているので、子どもたちは、前世紀に地域社会で安易に接触していた典型的な手工芸を観察することができないのである、

インダストリアル・アーツは、子どもたちに、現代産業における典型的な道具や材料をもつて仕事をやる機会を与え、生産工程や生産物についての理解を与えるものである。それはまた子どもたちが、職業を選

ぶことを援助することにも役だつし、現代の機械時代の生産物を賢く消費するようになることも役だつのである。さらにまた、インダストリアル・アーツは労働・管理の課題についての理解もあたえるものである。

## 二、初等学校におけるインダストリアル・アーツ

シカゴは初等学校は八年制をとつているが六年から八年までの男女児童がインダストリアル・アーツの作業をしていて、その児童数は六万以上におよんでいる。シカゴの初等学校におけるインダストリアル・アーツは、児童たちが実用的なしごとを経験する作業コースとして設けられていて、その作業は一般普通教育の重要な部分を占めていて、その教育内容は家庭や地域の要求を中心としてとりあげられている。理知的な家庭で使われている道具や材料でもつて、家庭生活がおくれるよ

うになる必要な理解や技能を、生徒たちが身につけることができることをめざすのである。

目標——初等学校のインダストリアル・アーツの主要な目標をあげるとつぎのようになる。

- 1、実用的なプロジェクトを作る間に、各種の道具や材料を使い能力を発達させる。
  - 2、アメリカ人の家庭に普通に使われているいくつかの器具を、安全に効果的に取り扱う能力を発達させる。
  - 3、工業製品の選択、管理、使用によつて、消費者としての知識を発達させる。
  - 4、校外時間において、創造的表現力を養う手段として手工芸についての興味を発達させる。
  - 5、他の者との協働的に働く能力と社会的理解を発達させる。
- さらに今日の教育的実践の要求によりよく応えるために、初等学校のインダストリアル・アーツは、つぎの教育方針を加えるのである。
- 1、その教育内容は、家庭や地域における現代的課題に密接に関係すべきである。
  - 2、道具を孤立的に使うことや練習すること



と、たとえば実際にしごとをすることから離れた単なる技能の訓練——木の接合とか縫い方だけの技能の訓練には、あまり重要さを与えない。

3、プロジェクトは子どもの教育的成長を考慮するとともに、最後まで完成することが重要である。

4、このコースは、学校プログラムの正規の基本的な部分であり、特別教育課程ではない。

5、男女ともに、現代の家庭作業においておこなう多くの工業的課題に賢明に応じうるように、各種のタイプの道具や材料でしごとをする機会が与えられるべきである。

6、男女とも、現代生活において普通に使用される典型的な手工具や材料でもつてしごとができるようになるべきである。

7、男女とも衣・食のしごとについての経験が必要とする。男女ともに、食を選び、買い、衣物の修繕ができなくてはならない。  
内容——内容としてつぎの六領域をとり、ユニットに二〇週をあてている。

I 初歩的な織物 六学年

II 初歩的な家計 六学年

III 家庭と衣服 七学年 八学年

IV 電気・家具と手工芸 七学年 八学年

V 食と栄養 七学年 八学年

VI 家・庭園と手業 七学年 八学年

作業室と準備品——作業室にはガス・電気・流し・水道が準備されている。そのほか機械ノコ・アナアケ機・グラインダー・四台の電気ミシン・四つのストーブが常備されている。さらに、ベンチ・テーブル・床几・工具類・用具箱が標準クラスである二五名の生徒の必要にこたえるように設備されている。

### 三、中等学校のインダストリアル・

#### アーツ

シカゴの中等学校は四年制をとつていて、四二校の普通中等学校において、インダストリアル・アーツをうける男女の生徒数は八千名以上になつていて。

インダストリアル・アーツの教育内容は、現代の産業から、その主要な部分を引きだして課題を設定している。男女の生徒たちは、インダストリアル・アーツの学習によつて、現代の機械時代を理解するように、教育内容が計画されている。

そのしごとは、技術的なコースを継続することを計画している九学年の生徒には必修と

されている。一般普通課程をとる九、十二年の生徒にとつては、選択コースである。したがってインダストリアル・アーツのコースは、一週間に五授業時間の二重のコースがある。標準的なクラスの大きさは二十五名である。

目標——中等学校のインダストリアル・アーツの目標はつぎのとおりである。

1、生徒たちが、産業的なしごとにおいて興味や能力を啓発することができるように、現代産業に典型的な工具や機械についての経験を準備する。

2、リーダーとして、あるいはグループの協働者として他の者と働く能力と社会的理解を発達させる。

3、子どもの知的・情的・身体的訓練と成長を統合することによつて、全人格を調和的に発達させる。

4、製品の質とそのよいデザインを認める技能を発達させる。

5、効果的に安全にしごとをする秩序のうちにおいて、普通日常の工業製品を大事にするに必要な基礎的技能と科学的知識をおしえる。

6、ごくありふれた手工具・簡単な機械・材

料をもつて、実用的なプロジェクトを計画し構成するに必要な技能や知識を発達させる。

7、余暇時間において、創造的な表現力を養うに貴重な方法である手工芸について、興味を発達させる。

8、読図・工作図・表・グラフについての技能を発達させる。

9、数学・科学・言語・芸術・社会科学の学習のために役だつ。

10、技術者たる誇りを発達させる。

11、道具・材料・単純な機械を取り扱う器用さと創造力を助長させる。

内容——中等学校のインダストリアル・アーツのコースはつぎの領域にわけられる。

電気・金工・木工・プラスチック・印刷・鋏・皮細工。

これらのコースは、三〇五のユニットをおこなうエネルギー・シヨップの方法をとつて、学習が指導されている。教室は道具室・準備室・生徒作業室を備えている。

インダストリアル・アーツのカリキュラムの教育内容は、現代産業からとられている。そして現代の機械時代を理解すること、日々の生活課題に遭遇して、道具や材料をもつ

てしごとができる能力を養うことをねらつて教育内容が選ばれている。

インダストリアル・アーツの教師は、つぎのようなことによつて、生徒の興味を重んじながら学習の指導を行うのである。プロジェクト・演示・実験・クラスの討議・関係図書の見学・個人指導・視覚教具の使用・見学旅行。

プロジェクトは、生徒の興味のある基礎的な生産過程をもつたものがとりあげらるべきである。形式化されたプロジェクトあるいは

### 新・刊・紹・介

#### ▽中国の子どもと教師

(内山完造・斎藤秋男編)

本書は四編から成つていて、最初の「帰国者にきく中国の教育事情」では、中国にいた教師に、野口彰氏その他が質問したものの、つぎは長年中国にいた日中友好協会理事長内山完造氏の「中国理解のために」第一三は共同研究として「私たちはここに問題と教訓を発見する」があり、最後に中国教育研究家の斎藤秋男氏が「中国教育の昨日・今日・明日」が収録されている。その間に多くの現地の写真が挿入され、現在の中国の子供と教師がどんなに生々とした教育の中におかれているかが全面に躍動している。われわれは、お隣の中国でどんな

道具の単なる練習は、現代のインダストリアル・アーツの教育には不適当なものである。プロジェクトは生徒によつて、よく計画されたものでなくてはならない。そして教師はその指導にあつて、生徒がその発達に応じてつねに道具や材料を正しく一貫して使用することを要求すべきである。

[注] Industrial Arts and Vocational

Education Vol. 42, No. 9 (1953).

II) より紹介

教育が行われ、子供や教師がどんな状態におかれていることを知ることは、他山の石として、わが国の教育を反省するばあいのよい資料となる。その意味で、本書のよりに多くの人によつて語られている教育の実は、多くのことを教えられるのである。本書にかかれていたことは理窟ではなく實際の姿である。読みものとしても、すらすらと読めて、読みだしたらやめられない。切に後一読をおすすめする。(B6判三三九ページ・価三〇〇円・明治図書出版KK発行)

#### ▽日本資本主義講座(Ⅲ)

(統治機構と政治運動)

本誌十月号で紹介した講座の第三巻である。政治機構の動態と本質とその他教師として読んでおく必要のある問題が多い。(価二八〇円・岩波書店発行)

# 浜松市西部中学校の

## 産業教育

### — 三カ年計画 —

浜松市教育委員会指定研究校である西部中学校は、鉄道工機部の工場を見おろす岡の上にある。この学校は浜松市の中学校産業教育のセンターとして、市の野末指導課長や指導部の指導のもとに、金原校長のもとに全職員が一体となつて、産業教育の三カ年計画案をたて着実な研究をすすめている。その計画案はつぎのとおりである。

#### 第一年度（昭和二十八年度）——理論的研究

と職家カリキュラムの作成

1、中学校教育体系における産業教育の意義及び価値を考えてこれが位置づけを考究する。

2、現行教科課程と産業教育との関連を考究する。

3、とくに職業家庭科と産業教育との関係を具体的に研究する。

4、そのために必要な基礎的事項を選択して各種の実態調査を行い、これが解釈を

して意味づけをし、問題点を把握する。

5、最後に「産業教育の一環としての職業家庭科の教育計画」においてその性格に基く「カリキュラム」等をまとめて発表し、各位の批判と指導をうける。

#### 第二年度（昭和二十九年度）——カリキュラム実施と産業教育の研究

1、第一年度の教育計画に基き、これを全学年に実施し、反省を加えつつ研究をつづける。

2、この教育計画の実践に即するような施設設備の整備充実をはかる。

3、中学校全教科の教育と産業教育との関連を具体的に研究する。

#### 第三年度（昭和三十年度）——産業教育の実施と反省

1、中学校における産業教育実践案を立案実施する。

2、産業教育実施の反省。

このような三カ年の計画案の第一年度の研究発表が、十月二十五日におこなわれたのである。

○

職業科の実地指導は、最近完成した一棟の特別教室でおこなわれていた。教室内の施設

設備は市の予算の関係でまだ十分なものではない。日本の教育の根本的課題である産業教育の振興のためには、速かに最低限の施設設備が整備されるべきであろう。不備な設備のもので、教師の創意性によつてつぎのような実地指導がなされた。

一年 土壌の酸土検定・小遣帳の記帳

二年 とうしや印刷・電熱器の分解修理・昇降盤の操作(男)・ミシンの分解修理・衣服の手入れ・日常食の調理

(人造米の観察)

三年 バイクモーターの操作(男)

○

実地指導の後、十一時より一時間にわたり、職家主任の長谷川先生の研究発表がなされた。産業教育の一環としての職業家庭科の教育計画案としてすぐれた発表であつた。これだけの研究をまとめるには、職家科担当の八人の先生が学年のはじめ以来、なみなみならぬ努力をされた結果だといえよう。金原校長のお話によると、夜を徹しての研究もしばしばあつたという。産業教育のもつ重要性についての確たる教育的信念なしには、そのような研究体制は生れないものである。

(清原生)



# 幼稚な社会的認識

## 学習指導要領女子向コース批判

現行の職業・家庭科は、その学習指導要領の「まえがき」に示されているように、この教科がとく農・工・商・水産・家庭の体系にとらわれて、旧実業教育的な教育に逆転する恐れがあつたので、この欠点を除くため農・工・商・水産・家庭の分立を廃し、地域社会の必要と学校や生徒の事情に適合する教育計画が立案できるようにその内容を統合し、一つの教科として成立したのであつた。

このような統合の方法、またその基礎となすこの教科の性格や目標、さらにそこから導かれた単元の構成法や学習指導法などについては、これまで多数の論者によつてきびしい批判が寄せられていることは周知のとおりである。

ここでは、学習指導要領に「女子向コース」の例として示されている二つの教育計画を素材として、そこに流れている根本の考え方、いかえれば今日における文部省その他の家庭科教育の指導者層を支配している社会観を分析してみよう。

○

農村女子向と都市（商業地域）女子向の両案を対比してみると、その構想・内容の余りにも類似していることに、まずおどろかされる。試みに単元一覧表を比べてみよう。わずかに単元名の異なるもの

は、農村女子向で「花の栽培とにわたりの飼育」「食品の貯蔵と加工」の二単元、都市女子向で「家庭と職業」の一単元だけである。しかもそれは形式的な差異であつて、各学年別に掲げられている単元の構成表を見比べると、内容的にはほとんど差異がないことがわかる。強いて異なる点をあげれば、農村女子向に「飼育」「食品加工」が配当されているのに対し、都市女子向ではこれらを欠いていること、および後者の場合珠算の時間が前者に比べてはるかに多いことぐらいである。

現行の学習指導要領では、この教科の教育内容はとくに生活の実際から組み立てるべきことを標榜しているはずである。しかるに、そのサンプルとして例示した教育計画が以上のように、その原則を無視したのはいかなる理由に基くものであろうか。

もちろん、筆者は指導要領の志向した卑近な地域主義を支持する気持は毛頭ないが、この案のように都市と農村の課題の相違をも無視した画一主義に疑問を感じないわけにはいかない。その疑問とは――。

まず第一に、農村女子向の各学年に盛り込まれている仕事の内容の余りに都会的色彩の濃厚なこと。しかも農村の家庭生活改善のために必要と思われる教材が、必修ではなく選択にまわつていふこと。

第二に、農村女子向でも都市女子向でも、その内容を消費面に極度に限定していること。

こうした筆者の疑問に対して、立案者は次のように説明するようである。「現在の農家の実情は、女子も男子といつしよに働いた後、さらに家庭の仕事がまつている。このような生活になんらの反省もせず、くり返していることはじゅうぶん検討して、過重な労働

は避けなければならない。女子としての天職を認識し、女子に適する部面で協力することがたいせつである。しかし農業の仕事は副業とすることはきわめて望ましいことである」と。

しかしこのような解答は、筆者に満足を与えるどころか、立案者の社会観に対する筆者の疑問をますます深めていくだけである。なぜなら、今日の日本農村の現状に少しでも関心をもつ者はだれでも単に過重な労働を避けるといふことだけの理由で婦人を生産面から後退させ、かれらをただ家事担当者とするといふことによつては、農村の婦人問題や生活改善の問題は解決し得ないといふことを熟知しているからである。この問題の解決は、婦人を生産担当者から離脱させることによつてではなく、むしろ遅ましい生産担当者としての自覚と責務の上に、いかに家事労働を合理化すべきかを、眞剣に追究することによつてなされるものと思われる。

ともあれ、こうした立案者のユートピア的社会観が、両案の隨所に認められることは事実である。とくに農村女子向の教育計画と日本の農村の現実とのギャップは、家庭生活改善をめざすこのコースのねらいとはかなり開きがあるようである。

家事を天職と認識し、生産的労働を副業とみなす立案者の婦人観は、いうまでもなくアメリカの家庭科教育の理想像であり、同時に戦前の日本の家事・裁縫科のそれである。両者の差異はただ、便利な生活器具を巧みに使用するかしないかの問題である。

こうした考え方に出發した兩案が、農村と都市の課題の相違を超越して、都会的な内容に整序してしまつたことは当然のことかも知れない。

立案者がいかに産業社会について、幼稚な認識しか持ち合わせていないかは、「家庭生活と社会生活」の關係を説明した、つぎのとばによつてもうかがうことができる。

「家庭生活の向上はすなわち社会生活の向上であることを認識するとともに、家庭生活のみに閉じこもることなく、社会奉仕の機會を得て、社会の向上発展に寄与する心がまえを助長することがたいせつである。」

学校でユニット・キッチンをはじめとする最先端の便利な生活器具の使用法を教へておけば、生徒はその便利さを体験し、やがて家庭にそれらを導入するようになる。そのことによつて家事労働は軽減し、家庭婦人は余暇を見出して教養娯楽にその時間を充てることのできるようになる。このことがすなわち、家庭の合理化・科学化であつて、ひいては社会生活の向上であり、家庭生活学習の最大のねらいは、まさにここにあるといふ考え方である。したがつて、ここでいうところの社会奉仕とは、生産的労働に従事するという意味ではなく、余暇の善用や交際、例えばつとめてPTAに参加することか、共同募金運動を援助するとかいふことである。経済法則のイロハを知る者はだれでも、その頭の幼稚さに苦笑せざるを得まい。

これを要するに、学習指導要領の志向した家庭生活学習は、理念的になら戦前の家事・裁縫科と異なるところはない。ただアメリカ式の技術学習を導入したことによつて、「良妻賢母」が近代化したにすぎない。アメリカの場合とはあれ、貧乏な日本の現実においては、近代的家事技術は、学校という名のユートピアで空回りしているといつたらいいすぎだろうか。—M・S生—



# 日教組の動き

## —教育時評—

われわれは日教組の動きに重大な関心を持つてゐる。なぜなら経済的に社会的に教師の地位を自ら守る団体だからである。いかに高まいた理想、いかに自主的な教育経営を考へても、それを行ふ教師の地位が、手も足も出ない状態では、空論に終つてしまひ、権力者に都合のよいようにいがめられ、氣にいらぬものは首にすればよいからである。抵抗の強い面から切りくずしていく戦術は、常に用いられる。そのばあい、団結のみがよくそれを守るのである。

○ ところが多くの教師は、この分たちの組織を一日として忘れてはならず、それを念頭においての教育活動が必要である。

○ ところが多くの教師は、この二者を分離して考へがちである。第一、自分たちが組織によつて守られてゐることを忘れてセクシヨナリズムや感情から極めて人のよい隙を与えたり、また教組は教組、学校は学校という風に使い分けられる。教組では、丹頂ヅルといわれるように

頭だけまつ赤にして、怒号することが斗士で、地域にかえつたら、かりてきた猫みたいになる。(ものもある)というのでは、どうもちぐはぐな感がまぬかれぬい。

つきには、組合便乗主義者で終戦後組合華やかなりし頃、このバスに乗つてとばかりとび出した連中が、教育の発展、教師全体の自主性よりも、組合を踏合にして議員にでも出ようとした風が見られた。これがどれ位反教組熱または教組無関心をそつたかしのれないと思ふ。組合活動は利己を捨てることを原則とする。

○ 最も地味な日々の教育活動の中にこそ、眞の教員組合の使命が宿つてゐる。

○ 勝手気ままなニクソン声明に見られるような、日本に軍備を放棄する憲法を強いたのはアメリカの誤りであつたなどと、まるで日本を子供でも扱ふように自由に支配しようとする企んでゐる時、日本の将来を担う子供たちを、日本のおかされてゐる地位を自覚させる教育——その逆を強制しようとする日本の反動的官僚性を打破することに、教員組合がトリデとならねばならぬ

○ 重大な時である。その間に連る現場と組合の關係が、最近漸く日教組で取り上げられてきたことは、与えられた組合とはいへ、やつと一人前になりそうな氣配が感じられる。これを推し進めるものは、組合員である教師の日々の実践である。

○ その意味で来年一月末、静岡で開催を予定されてゐる第三回教育研究大会に、われわれは多くの期待を寄せるもので、これまでに見られた政治的アジテーションよりも、もつと地味な実践活動の語り合ひとなり、理論水準と実践的な力とが、一層組合員大衆に浸とうする方法こそが望ましい。(中山生)

### □ 会員通信 □

○ 本誌にいつか「東京は教育の僻地」という記事がありました。が、今度上京してそのことをはつきり知りました。どこへ行つても満足な施設もなく、これはという経営も見られませんでした。職業・家庭科などは、あつてなき状態でゴマ化してゐると思ひました。東京都にも指導主事があるのでしようか。それとも東京とはこんな所でしょうか。

(香川県、S・I生)

○ 当地でも基礎技術の指導、産業教育としての本科が盛に論じられてはいます。が、その實際は従来の仕事中心以上を出ていません。先日ある学校で「生産教育の展開」という主題で研究発表があつて、基礎技術の指導に重点をおくといいながら、石油発動機の手えつけがたためだつたり、センがゆるんでそこかからガスがもれていても平氣でいる状態でした。かく当地の本科に対する動きは、他地方に対して研究不足してゐます。これではならないと現状打開を考へますが、なかなか思ふようになりません。(京都府、S生)

▽ 前略今回職・家科講習会開催に当りまして、遠路交通不便な土地までお越しいただき、産業教育の原理より実践に至るまで御懇切な御指導をいただきましたことを厚く御礼申します。おかげで本科に対する強い自信を得、今後明るい希望を持つことができましたことを心から感謝しております。(千葉県白浜中学校)

▽ 先般はよき講師を派遣下され有難うございました。指導部からも時宜に適したものとしまして喜ばれました。原く御礼申します。(浜松市西部中学校)



## 編集だより

▽本号は予告通り、家庭教育を特集しました。執筆者七氏のよせられた意見は、紙数を制限したので、短いものではあつたが、どこか一致したものが見いだされます。従来の家庭科概念からぬけだそうとしていられることがわかります。

▽もう一步というところです。何かもやましたものがわり切れないで残されています。みなさんの眞剣にとり組んで下さることを願います。男女の別なく、これに対する見解をよせて下さい。

▽切り間際に、M・S氏(MSAに非ず)から鋭い投稿がよせられました。実は今まで誰も見すごしていたことにすぎないのですが、文部省でも家庭科のことは、ハレものにもさわるようにして、理論水準の低い面にゆずつて、われ関せずエンという態度をとつていることは改めてほしいものです。(こんな風に研究すれば、学習指導要領も得るところ多し)

▽小田原市第二中学校の職業・家庭科のキャリアラムの基礎については、実践的な立場から、長い間の体験を通じて、あらゆる方

面から考察しているので参考になる点が多いでしょう。これは、最近本研究会の推薦によつて刊行(一月末)の予定である「産業教育の実践」の一部分です。くわしくは同書で読んで下さい。

▽海外資料は、毎月アメリカからとりよせている月刊雑誌から毎号紹介しているものです。日本の現状に比べてインダストリアル・アーツの普及と実践が、いかに進められているかを知つてもらいたためです。

▽会員からよせられる通信や御忠言、それに会費の納入も活潑になつてきて厚く感謝しています。また進んで会員をかく得して下さい。全国的に盛り上つてきてこそ、この教育の発展が期せられるのですから。

▽次号新春号は、新年号らしい内容にしたいと思つています。会員の方も積極的に投稿して御協力下さい。(編集子)

### 既刊パンフレット(在庫分)

- ▽学習指導要領批判 (No. 8)
- ▽学習指導案の実際 (No. 9)
- ▽栽培の学習指導案 (No. 12)
- ▽適性検査の限界 (No. 7)
- ▽適性概念の検討 (No. 10)

▽職業家庭科と職務分析 (No. 11)

▽平和と生産の教育 (No. 13)  
各冊二十円(送料四冊まで八円)前金にて申込みのこと。

### 職業と教育(既刊在庫分)

- ▽二月号(職業指導の問題点、その他)
- ▽三月号(産業教育の方向―座談会他)
- ▽四月号(生活技術と生産技術、その他)
- ▽八・九月号(大ブケ中学校案、その他)
- ▽十月号(中学校商業教育の問題、その他)
- ▽十一月号(最新号)

二つの実践報告―木工関係(古岸正賢) 電気関係(稻田茂)・ある教師への手紙(2) 池田種生、その他

以上各冊二十四円(送料四円)御希望の向は前金にて申込み下さい。職業教育研究会宛。

昭和28年11月30日印刷(定価一部三円)  
昭和28年12月5日発行(年額二百円)

編集者 池田種生

東京都中央区銀座東五ノ五

発行所 職業教育研究会

電話銀座〇〇八二番  
振替東京七七一七六番

# 中学校 産業教育の実践 附細案

教育部省産業教育指定校

小田原市立第二中学校編著

## 目次概要

序論 実践の跡を省みて

第一章 職業教育の実践記録と反省（全四節）

第二章 職業・家庭科の問題点と対策（全六節）

本論 産業教育計画と実践

第一章 本校産業教育計画立案の基礎（全五節）

第二章 教育内容選定の原理と実際（全八節）

第三章 職業・家庭科のカリキュラム構成の手順と実際（全二節）

第四章 職業家庭科の学習指導の原理と実際（全四節）

（以下略）

## 日本図書館協会選定・職業教育研究会推薦

清原道壽 著

A5判 二七〇頁  
三〇〇円・〒四〇〇円

### 教育原理

産業教育の理解のために

これからの日本の教育は、科学的生産人科学的産業人をもつて、科学的な人間像としてとりあげる。そのような人間像をめざして教育をおこなっていくことによつて、日本民族の根本的課題である、平和と独立の目標を達成することができ、永年にわたつて産業教育ととりくみ研さんを尽した著者が、従来日本の教育に鋭く対決した意図は、まさにこの点にあつた。あえて本書を産業教育の理解のために贈る。

後藤豊治 著

A5判 二八〇頁  
三〇〇円・〒四〇〇円

### 職業指導新論

現在、戦後の新教育全般は、日本という社会の現実の基盤にたつて批判・検討が加えられ、その正しい方向を見出たそふとしてゐる。戦後の職業指導理論が、外国からの直輸入をそのまま模倣する時代から転換し、脱皮する所以もまたここにあつた。本書はその意未から、よく読者の批判を待っている。職業

東京都中央区  
五ノ東五座

立川図書株式会社

振替番号  
東京 83314